

# 東京都 HIV 透析ネットワーク 参加施設募集



- \* 東京都透析医会では、HIV 感染透析患者の増加に対応するため、東京都 HIV 透析ネットワークを設立し、ネットワークに加入して頂ける透析施設の募集を開始しました。

全国の HIV 感染透析患者は、3 年前の横断的調査で 124 名に達していました（透析会誌 52:23-31, 2019）。アンケートの回収率が約 44%であったので、実際には現在少なくとも 150 名をはるかに超えているものと思われます。特に、全国の HIV 感染患者の 1/3 が都内に在住していると言われており、実際、2018 年度に行われた東京都の調査では 73 名が都内の透析施設で維持透析を受けていました。また、この調査で HIV 感染患者を受けたことがある施設はすべての病院（大学病院や基幹病院を含む）も合わせて 51 施設（16.8%）に留まっていた。これでは、今後さらに増える HIV 感染患者をカバーすることは困難です。感染管理が行き届いている都内のサテライトなら、HBV, HCV を受入れられて HIV を受入れられないはずがありません。というのも、HIV の感染力は HBV の 1/100 と言われており、今では HIV 感染症は ART (anti-retroviral therapy) によって検出感度以下に抑えこめるコントロール可能な疾患となっていて、HIV 感染透析患者医療ガイド 2019 も昨年発行されているからです。

⇒ [http://www.touseki-ikai.or.jp/htm/07\\_manual/doc/20190301\\_hiv\\_guide.pdf](http://www.touseki-ikai.or.jp/htm/07_manual/doc/20190301_hiv_guide.pdf)

かつてどの透析施設も進んで HBV, HCV 感染患者を受入れたように、都内のどのエリアでも HIV 感染患者が透析を受けられるようネットワーク加入にご協力下さい。なお、加入しても公開されることはありません。東京都 HIV ネットワークプロジェクト事務局と東京都透析医会会長が把握し機密性を保ってリストを保管するので、オープンになることはありません。都内で HIV 感染患者が透析導入された際、透析導入病院の依頼によりネットワークプロジェクト事務局が地域性を考慮してネットワークに加入している透析施設を内々にご紹介するシステムですのでご安心下さい。

2020 年 4 月 27 日

東京都透析医会会長

安藤 亮一

東京都 HIV 透析ネットワークプロジェクト委員長

厚労省 HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班

日ノ下 文彦